

クリスマスのころに、よく放映されるハリウッドの大作の一つ、『ベン・ハー』をご存知でしょうか。その冒頭のクリスマスシーンには心に染み入るような美しさがありました。今回は有名な戦車競技の場面が行われた円形競技場について少しだけ感じることを。

ローマを訪ねたことがあります。コロッセウム遺跡を観ました。どのようにして造ったのか、と驚きました。大きな十字架が立てられていました。殉教者たちを憶えるためと理解しました。客席側に立って、観たわけですが、競技をする平面がありません。あると思しきところには大きな柱がたくさん立っています。訳が分からない、信じられない、という感覚。まさかと思いました。この柱の頂上部に床を貼り、さまざまな競技を行ったようです。そうして床下には大きな地下空間が出来、競技に必要な物品、動物・人間などを収納できました。どういう人が、これほどの構造を考え、実現させたのでしょうか。帝国には、「造営官」という役職があったそうです。専門の技官だったのでしょうか。皇帝の命令を実現する技術・能力を持った人々です。その伝統は現代も生き続けています。イタリアの建築家が、先進的な「緑の立体都市」計画を牽引しています。日本の新国立競技場をはるかに凌駕するものが、イタリアではすでに動き始めています。中国も関心を示し、第一歩を印しています。

コロッセウムを造る動機は、「民衆にはパンとサーカスを」与えて懐柔すべし、との支配者側の考えでした。民衆が求める最高の娯楽は、流血でした。剣闘士、処刑、など。帝国の平和は、流血の上に成り立つ。血は命です。現代の究極の娯楽は多種多様な競技となりつつあります。競技者の命をドーピングによって傷つけてまで栄光を求めます。未来世界は、マン・ハンティングを最高、究極の娯楽として楽しむのでしょうか。